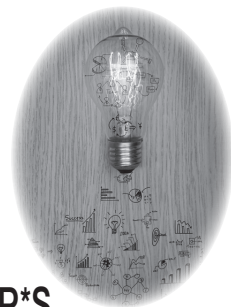


特集：人と組織を変えるワークショップ  
——診断士だからできるわくわくイノベーション

## 第5章

# わくわくイノベーションを 促進するオープンな場づくり

——「対話・想像・実践の第一歩」のための新しい学びの場 TIP\*S



岡田 恵実

東京都中小企業診断士協会 城南支部ワークショップデザイン研究会

中小企業や小規模事業者、創業者、創業希望者のための新しい学びの場として、中小企業基盤整備機構（以下、中小機構）は、2014年10月末に「TIP\*S」（ティップス）を開設しました。そのコンセプトは、「対話・想像・実践する場」。

私は、TIP\*Sの立ち上げにかかわり、現在は企画および運営を行っています。本章では、TIP\*Sを開設した理由と実施している内容について、紹介させていただきます。



TIP\*Sのロゴ

### 1. 新しい学びの構築はオープンな場で

中小企業には、人材育成、資金調達、販路開拓など、数え上げればきりがなほど多くの課題があります。また、経営を継続していくためには、これまでと同じことを同じようにやっていたはいけないという危機意識を持っている企業も数多くあります。

しかしながら、実際のところ、課題の前段である自社の問題の本質は何なのか、その問

題をどのように解決すればよいのかを説明できるとは限りません。また、その問題を解決するために、「誰に」、「どこに」、「どうやって」相談すればよいかわからない、というのが本音ではないでしょうか。

新しい事業を実施する必要性は認識していても、それでは、どこからとりかかってよいのか、新しいアイデアをどうやって見つけ出せばよいのか…。日々の忙しい業務の中で、具体的に行動を起こすのは大変なことではないでしょうか。

「新しい事業のアイデア探しをしたい」、「情報交換ができる仲間がほしい」、「地域活性化のヒントを得たい」など、多くの中小企業経営者などが持っている悩みや思い。

こうした悩みや思いに対し、アドバイスをを行う、講師がノウハウを教えるというこれまでの支援方法だけでは限界がありました。

「人との対話」を通じて新しい気づきやきっかけを得ることで、新たな行動への一歩を踏み出すことができる、あるいは自社の経営課題を認識することができるのでは、と考えました。

そこで、起業に関心がある方たちや、新しい事業や商品を開発するきっかけがほしい小規模事業者や中小企業に対し、ワークショップなどを活用した「出会い」、「つながり」、「共創」のあるオープンな場として、TIP\*Sを東京都千代田区に1年半の期間限定で開設しました。

## 2. 「多様な人との交流」、「双方向」、「実践」がコンセプト

### (1) 目的

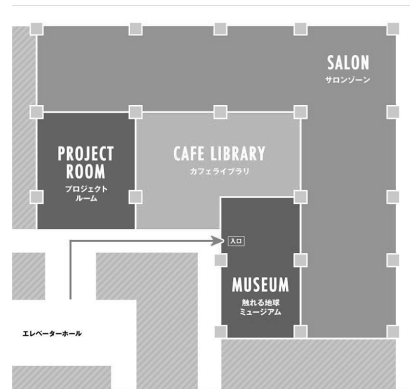
「自分の好きなこと・得意なことを活かして起業したい」、「新しい事業のアイデアをふくらませたい」、「いま以上にいきいきとした会社になりたい」、「悩み・問題を解決して次のステップに進みたい」などの思いを持つ方向に向けて、「多様な人との交流」、「双方向」、「実践」に主眼を置いたイベントやワークショップ、講座、セミナーを通じて「想いをカタチに」するきっかけを提供しています。

### (2) 名前の由来

- ・TIPS：ヒント，秘訣
- ・含意：Talk, Imagine, Perform, Stage  
対話し，想像をふくらませ，実際に行動の第一歩を踏み出す場。「TIP\*S」の「\*」は，気づいたところにチェックを入れる意。

### (3) 空間の特徴：ハード

- ①全国からアクセスしやすい場所  
東京駅前に立地しています。
- ②仕切りがほとんどないオープンな空間  
空間全体が仕切りのないオープンな空間になっています。さまざまな声が聞こえる「ワサワサ」感が創発を生みやすいのです。
- ③ワークショップなど複数同時に実施可能  
2～3のワークショップやイベントを同時に実施することが可能です。実際，平日夜の多くは，2つのワークショップなどを同時並行で開催しています。また，空間全体を用いれば，200人程度のイベント開催が可能です。
- ④大企業が母体の社団法人とスペース共有  
この空間には，TIP\*S（中小機構）とCSVビジネス創造拠点「3×3 Labo」（三菱地所を中心とした一般社団法人エコツェリア協会）の2つの機関が併設されています。その結果，規模の大小や業種業界の垣根を越えた多様な人たちが集まりやすい環境になっています。



レイアウト図



カフェライブラリ

### (4) 空間の特徴：ソフト

- ①実践型ワークショップやイベントを実施  
講師から知識を提供する，あるいは講演者から一方的に話をするよりも，参加者同士の対話を中心としたワークショップや，感想のシェアに重きを置いたイベントを多く実施しています。
- ②多様性を重視し，参加者制限は原則なし  
中小企業，小規模事業者や創業者のための場ではありますが，ワークショップやイベントの多くでは，所属属性での参加制限は行っていません。さまざまな人との対話やかかわりからこそ，多くの新しい気づきが得られるという考えからです。
- ③企業規模，地域の垣根を越えた人材交流  
これまで対比することの多かった「中小企業と大企業」や「都会と地域」ですが，新しい価値を共創していく存在として捉えることが大切と考えています。そのような交流ができる取組みを実施しています。

④「人」(個人)にフォーカス

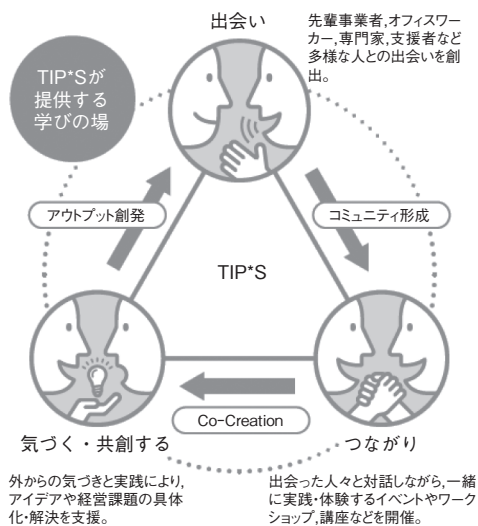
役職や部署など組織における役割ではなく、個人の「思い」、「やりたいこと」から新しい動きやイノベーションが生まれると考えています。したがって、参加者自身が学びたい、交流したい内容に合わせて参加できるワークショップなどを数多く実施しています。

⑤平日夜や土曜を中心に開催

平日の昼間に学ぶことが難しい中小企業、小規模事業者、創業(希望)者に配慮し、多様な人が集まりやすい平日夜や土曜を中心に開催しています。

⑥重点テーマは「新アイデア創出」、「地域と都会をつなぐ」など

次のステップに進むための新たな気づきを提供できるテーマを多く実施しています。



3. 実施しているワークショップの例

(1) 大→中小企業「あるある」小辞典—まだまだ失敗(チャレンジ)が足りない—

①概要

大企業から地方の中小企業の跡を継いだ現社長が、事業承継、新規事業の立ち上げ、海外展開で直面した数々の課題(失敗)と、それにもかかわらず前に進む現在進行形を講演。

併せて、中小企業経営の中核となる「人」をテーマにワークショップを実施しました。

②参加者の感想

「リアルな失敗談を聞くことができたことに加え、明日につながる人材育成のアイデアを出し合えて良かったです」

(2) 出身地 DAY

①概要

「出身地である地元を応援したい!」という「出身者」が集まり、同じ都道府県の人と熱く語るイベント。

20~30代が中心となってSNS・イベントでネットワークを広げている出身者の集まり「ネオ県人会」に注目。さまざまなネオ県人会を紹介するとともに、参加者が各都道府県別に分かれてのディスカッション、出身地好きという共通点がある参加者同士でのテーマ別ディスカッションを実施しました。

②参加者の感想

「同じ思いを持つ同じ県出身者と出会い、地元を応援するきっかけが得られました」、「他の地域で行っている取組みを学べて、連携した活動などもできそうです」

(3) マイプロジェクト道場

①概要

経験などから感じる身の回りの課題や社会に対するちょっとした疑問を出発点に、等身大で取り組めるプロジェクトを作成。参加者同士でサポートし合いながら、プロジェクトの具体的な一歩を踏み出すための連続講座。

自分が感じている課題に対して、ジブンゴトとして取り組みながら、アントレプレナーシップを高めていく「マイプロジェクト」という手法を活用して実施。

②参加者の感想

「自分がやりたいことが何かに気づくことができました」、「仲間がいることが、こんなにも心強いものだ初めて知りました。仲間のおかげで、実践の第一歩を踏み出すことができました」



マイプロジェクト道場の様子

#### (4) 「ものづくり（大企業×中小企業）」× 「社会問題」フューチャーセッション

##### ①概要

介護，子育て，働き方など社会の問題を解決するために私たちは何ができるのか？

「社会問題」と「ものづくり」の視点で，発想を広げ，思いを同じくする人たちで共創する場を創るためのフューチャーセッション。

##### ②プログラム

- ・問いの共有，ストーリーテリング
- ・ワールドカフェ（解決したい社会問題は？）
- ・マグネットテーブル（仲間を見つける）
- ・未来編集会議（作りたい未来を媒体で表現）
- ・自分が起こしたいアクションを全員宣言

##### ③参加者の感想

「さまざまな立場にいる方と対話することにより，これまでになかった視点や気づきを得られました」，「これまでになかった連携ができそうな出会いがありました」

#### (5) 東北創発アイデアソン～事業創出で地域 発イノベーションを目指せ

##### ①概要

東北で事業を営むゲスト事業者（木材／農業）が事業発展に向けて望んでいる展開をテーマとして，アイデア創出のワークショップ（ゲスト事業者のプレゼン，アイデアブレストおよびブラッシュアップ）を実施。ゲスト事業者には出たアイデアをフィードバックし，今後の活動に役立てていただきました。

##### ②参加者の感想

「アイデア発散～収束の流れを実際の事例をもとに学ぶことができました」，「人と話し，人のアイデアに乗ることでアイデアが生まれることを体感できました」



アイデアソンの様子

#### 4. オープンな場の目指す方向性

2014年10月末の開設以降，20～70代，学生から中小企業の経営者，創業希望者，大企業のオフィスワーカー，社会起業家，支援者など多様な方がTIP\*Sにお越しくださっています（2015年8月末現在，6,400人）。実際に参加者同士の対話の中から新しいアイデアが生まれ，商品化される，コラボレーション活動が始まる，起業するなどの成果も出始めています。

企業規模の大小や業種，地域の違いなどを超えて，参加者が安心して「対話」，「交流」，「実践」することができる場，人と人がかかわることで新しい事業や活動＝イノベーションが生まれる場にしていきたいと思ひます。

#### 岡田 恵実

（おかだ えみ）

早稲田大学大学院商学研究科ビジネス専攻修了。地域振興整備公団へ入団後，組織統合により，2004年より中小企業基盤整備機構に所属，現在に至る。浜松のインキュベーション施設の立ち上げを行い，ベンチャーや第二創業などを支援。

その後，中小企業のアドバイス業務などを担当。現在，人材育成支援部門において，TIP\*Sに係る講座やイベントなどの企画・運営を担当。2005年中小企業診断士登録。城南支部ワークショップデザイン研究会所属。

